

東奥日報
2019年(平成31年)1月24日(木曜日)(14)

ロボット教育 学科越えて

八工大20年度プログラム開設

八戸市の八戸工業大学(長谷川明学長)は2020年度、工学部に「学科横断型ロボット工学プログラム」を開設する。学生はロボット工学に関連する3学科の講座や研究に参加することが可能になり、進化が加速するロボット開発に必要な知識や知見を、学科の壁を越えて習得できる。

(若松清巳)

技術者輩出で地域貢献



長谷川学長と同学部の関秀廣教授らが22日、同大で記者会見した。同プログラムは同学部の5学科のうち機械工学、電気電子工学、システム情報工学の3学科を横断する形で設置する。学生は、所属する学科以外の2学科でも単位を取得することができ、卒業時にはプログラム修了証を授与される。履修できるのは20年度入学の学生からとなる。3学科は現在、それぞれ



学科横断型ロボット工学プログラムの意義について説明する関教授

3〜4のロボット工学関連講座を開設。人工知能(AI)などで情報を処理・制御する知識はシステム情報工学科、アームなどを設計する知識は機械工学科、通信でアームなどを動かす知識は電気電子工学科で学ぶことができる。しかしロボットを総合的に制御するには、所属学科以外の技術的知見も不可欠になる。会見で関教授は「例えば魚のさばきや加工など水産業の自動化には画像認識や操作系などロボット技術の融合が必要。3学科の連携が意味を持つ」と説明。長谷川学長は「学科間の壁を除き、ロボットを学んだ技術者として社会に出ること

で地域貢献できる」とプログラムの意義を強調した。同学部の学生たちは授業や課外活動で開発したロボットを各種コンテストなどに出品し、高い評価を得ている。会見ではこれまでの研究を反映させたロボットのデモンストレーションも行われた。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」